

四季の移ろいと廃プラ問題を考える

NPO 法人環境カウンセラーズ京都

金田 由紀夫

《箱庭への誘い鴨川…》

鴨川が、京都の確かな魅力であることには、言を俟たないであろう！

北の源流から街中の流れに沿って箱庭の景観がある。川両袖で対面に座り憩うカップルが、互いに気にならないほどの川幅は、狭くなく広すぎず安堵感を与えてくれる。川床が透け、涼しげな水音となる流れは、ただずんでいるだけで心地良さがあり、上流の景観も目に飛び込むことも相まって嬉しい遠近感である（写真1）。

箱庭の楽しみ、先ずは花香の移り変わりであろうか。

春一番の芽吹きを見せる柳（写真2）、前年枝いっぱいに黄金花をつけるレンギョウの後は、桜だ！（写真3）三条～五条間は特にサクラ属8種類ほどが川堤の並木で白や濃淡桃・紅色の花を咲かせる。

川沿いに建つ歌舞練場では、京おどりがあり、華やかに舞台を染める。雪柳が散形花序をつけ、枝垂桜が満開の花弁を落とす頃には、花吹雪の川

面が見られる。アジサイがよく分枝して紫陽花の堤になる頃からは、青もみじの樹冠が憩いの場を提供してくれる。可憐な草花の命をたくさん繋ぐ川面である。

秋には、イチョウの葉が深い黄色となり、銀杏を落とすまでの四季を五感で受けとめて貰える鴨川。入場無料・休みなしの箱庭である。唯のさんぽ、なれど散策をしたい誘惑にかられる！



写真2 柳が芽吹く頃の鴨川



写真1 街中を流れる鴨川



写真3 鴨川を華やかに彩る桜



写真4 中洲に打ち上げられたプラボトル



写真5 発泡スチロールは碎けてマイクロプラ化

《鴨川の落し物、廃プラ…》

いつもと、様子が違う！ 毎日の買い物コース 四条大橋の歩道に人が沢山立ち止まっている。川面を覗いて見ると50～70cmにもなる真鯉が群れて、色のついたプラ容器の中を突いている。飲み込んででは出した口に入れる。あっ！ 吐き出そうとしているが、引っかかってもがいている…。

海のプラスチックごみ汚染問題が深刻化する最中、波や紫外線で破片となり微細化されながら川から海へ運ばれ、魚類や海鳥類の誤食や生物体に絡まる問題が突出している。特に、5mm以下のマイクロプラスチックの生態系への悪影響が危惧されている。この対象となっているのが、スクラブと呼ばれる化粧品や洗顔料の磨き粉と衣服洗濯時に流れる繊維片も含まれる。生態系への影響のうち、魚介類への蓄積が人体へ還流される公算は、少なくないのであろう（写真4、写真5）。

プラスチック添加物である安定剤、難燃剤や紫外線吸収剤は有害化学物質で、蓄積され間接的に体に入ると研究者は指摘している。

《廃プラの課題解決に向け…》

この問題は、共催団体である環境計画センターでも取り上げられていたので、河川管理の関係者と京都市での廃プラ処理の今後の対応を探ってみた。整理してみると、以下が現況と今後の知恵出し課題であると認識した次第である。

（1）京都市のプラごみ削減策（12のアクション

プラン策定）

- プラスチック製容器包装の現分別率40%の向上
- レジ袋有料化と辞退率を80%以上に
- マイボトル普及のため市内店舗と給水機位置のネットサービス拡充
- 行政イベント等でのプラ製品使用禁止など…

（2）京都府・京都市協力しての鴨川管理

放置自転車やごみ不法投棄など景観の抑制策では、両者の地域協働が進むも十分ではない。鴨川河川敷で回収されるゴミは、毎朝職員・業者を派遣しても年間約100トンを超える。「鴨川を美しくする会」など市民団体の美化活動を加味しても、景観対策は不十分、との市民の声は小さくない。まして、海洋にまで流れるプラごみまで、残念ながらまだ対応ができていない。

（3）プラごみのリサイクル

“プラスチック包装のない食品や日用雑貨”があれば、宝探しごっこが出来る。それほどに、近年はプラスチック包装の用途が増加し、日々の使用が当たり前になっている。その現況下で有限資源の石油に代替できる素材の見直しと、埋立てでも解決しないプラごみのリサイクルがますます求められている。この科学技術の研究が更に進展、実用化され、普及することを強く期待したい。

一方で、漁業資源の乱獲防止や保護施策と同様に、プラスチック製品化／生産の限度枠を各国が考える段階に入ってきていると思える。大海原で、生き物の生態系が崩れては、一大事である。

《話を戻して、鴨川の恵みへ…》

水辺の四季を、野鳥たちが目を愉しませてくれる。

ユリカモメが厳冬期の乱舞を終える1月末の同時期に、繁殖期に当たるカワウがコロニーの琵琶湖竹生島に移動する(写真6)。普段単独行動をとるサギ類が孤高の姿を魅せる。ダイサギ、コサギ、ゴイサギとアオサギが、水辺で魚や水中生物に狙いを定めている(写真7)。いつしか野鳥の歳時記は、初夏に移り鴨川畔は野草も百花繚乱の季節になり、マガモ、スズガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、カルガモ等々カモ尽くしである(写真8)。中洲の草地で雛鳥を守り、採餌に流れを避けて連れ泳ぐ様子は愛おしく思える。人と好ましい共存を支える夏鳥の代表ツバメの生息環境ともなる。秋、野鳥庭園となる鴨川には、水鳥のほか、セグロセキレイ、



写真6 乱舞するユリカモメ

モズ、メジロ、ツグミ、鳶、サシバ等々常連達を観察できる。

京都市街地に接する一級河川で、糞や鳴き声などによる生活との摩擦発生がない背景に、寺社仏閣を抱える東山三山があると聞く。自然と持ちつ持たれつつを大切に育みたい。

末尾に一言、添えさせていただく。筆者は、現役時代に石油化学プラントを扱っていたので、廃プラ課題には個人的にも関心が大きい。読者から



写真7 獲物を狙うサギ



写真8 鴨川に住みつクカモ達



写真9 水鳥の住処、繁殖地の中洲

の見識も伺いたく、お近付きいただければ幸いです。

【追記】NPO 法人環境カウンセラーズ京都の活動

環境省登録の協会として立上げ、2005年3月にNPOに移行した。主に環境保全活動／学習等に対して、最も適した解決方法の提示・指導・助言を行っている。

その対象は幅広い。企業／事業者／市民団体／学校・大学等のほか、地域パートナーシップ形成に近年、積極的に取り組んでいる。他団体との共催事業も特徴である。

毎年12月に開催される京都府環境フェスティバルでの昨年出展は、パートナーと協力し活動内容を紹介した。注力中の「親子3代環境市民講座－紙芝居」も、科学的な高い評価を得たと自負している。

なお、ホームページは見直し中である。

*環境カウンセラーの環境省認定登録をご希望の方へ

相談・指導を行っています。世界遺産である「古都」京都の文化、自然に触れながら一緒に環境教育や環境保全活動を実践してみませんか。入会歓迎！ ※年会費3,000円（入会金なし）

どなたでも入会できます。なお、理事会の承認が必要なことをご了承ください。

連絡先：当会事務局 浦野新一
(E-mail: mha01450@nifty.ne.jp)

【付記；鴨川で廃プラを探して！】

鴨川のすぐ近くで鍵谷司技術士事務所を開設しているので、鴨川の四季の写真を撮影して季節の移ろいを楽しんでいる。写真6以外はすべて私が撮影した。

さて、鴨川は京都の東を南北に流れる川で、淀のあたりで桂川、宇治川と合流し、淀川となって大阪湾につながる。大阪湾からおおよそ100km程度上流に位置しているが、廃プラはほとんど分解しないので、いずれ湾内へ、そして外洋へと流出し、海洋汚染の一因となりうる。河川上流域で生活しているにもかかわらず廃プラに注目した河川調査報告は見当たらない。

上流域である出町柳付近には多くの中洲があり、群生する芦が野鳥の住処となっている。鴨川の流れの中に廃プラを見つけることは難しいが、中洲を探し回ると廃プラ、缶類などが打ち上げられ、目立たないがごみの溜り場でもある（写真4、写真5）。思ったよりも廃プラは少なかったが、泥が付着したり、埋もれたり、目立たないことも一因である。これらの廃プラも、中洲に留まっていたとしても人工的に除去しなければいずれ流出する。また、発泡スチロールは簡単に碎けて微小化するので、容易に海洋へと流出するのではないかと心配になる。廃プラを堰き止めて回収する工夫が必要ではないかと感じた次第である。

NPO 法人環境カウンセラーズ京都 副理事長
環境計画センター会長代行
技術士（環境部門等） 鍵谷 司
(E-mail: epc@gold.ocn.ne.jp)

〈参考文献〉

- 1) コラム「流域都市としての京都の魅力」 堂前雅史著
- 2) 京都新聞 政治行政プラス欄「147万人の明日」
- 3) 「プラスチックごみ－日本のリサイクル幻想」 NPO 法人アジア太平洋資料センター